

自然と共生する只見町の文化を伝える

『『自然首都・只見』伝承産品』に 新たに2つの産品が認証



▲間伐したブナをソリで運び出す
春木山



▲堅雪の上で間伐されたブナ

「『自然首都・只見』伝承産品」にブナの生木を使った「自然な歪みのカレー皿」と、昔ながらの仕事着を小さな壁掛け飾りに仕立てた「小さな仕事着の壁飾り（シゴトシ・ユッコギ）」の二点が新たに認証されました。

「自然な歪みのカレー皿」は、材料となるブナを只見町で伝統的に行われてきた春木山により切り出しています。春木山は木材を雪上で滑らせることで様々な歪みが生じ、世界に一枚しかない木皿となります。同プロジェクトでは、やすりがけや塗装を自ら行うワークショップなども行っており、自分だけの皿を作り上げることが出来ます。

「小さな仕事着の壁飾り（シゴトシ・ユッコギ）」は、国指定重要有形文化財である只見の仕事着コレクションの中から、伝統的な仕事着のシゴトシ（上衣）とユッコギ（下衣）を壁飾りにしたものです。日常着られていたこれらの仕事着を仕立てるのは女性の大事な冬仕事とされ、只見の冬の縫い仕事として代々受け継がれてきました。また、



▲自分だけのカレー皿を作る
ワークショップ



▲小さな仕事着の壁飾り



▲ブナの生木から削り出された皿

木綿布は貴重品であったため、ユッコギを作る際には一切の無駄が出ないよう反物を全て直線で裁ち、四角い布をパズルのように組み合わせで作られていました。

壁飾りを製作している「めいわ縫子さん」は明和地区の縫い仕事に興味のある女性達の集まりです。布を大切に作る精神を受け継ぎ、着なくなった着物や仕事着を解いた布を使用し、仕事着の作り方はそのままに壁掛け飾りを作っています。「昔の人の知恵は未来への希望」「先人たちのもったいない」は現代のSDGsの考えのもと、壁飾り以外にも実際に身につけて使える仕事着や袖な



▲明和公民館まつりで展示された
好きな仕事着の柄を投票するブース

カレー皿については、現在「ただみ・ブナと川のミュージアム」「ふるさと館田子倉」で購入（予約）することが出来ます。仕事着の壁飾りについては、同施設の他、只見町インフォメーションセンターやげんき村、めいわぬいっ子さん（詳細P9）で販売しています。



▲仕事着姿の「めいわ縫子さん」メンバー



▲明和公民館での活動の様子

し半纏、小物なども製作し販売を始めています。